

喜界町みらい会議提案

2025年10月

「男女共同参画」ビジョン
－ 2035年の喜界島 －

「全体」

- ▶ 喜界町がこの10年で大きく変化した。
- ▶ 先ず、女性が色々な分野で活躍するようになった。また、女性に限らず、誰もが尊重され、自分らしく生きることができるように、行政も企業も教育現場も一人一人の町民も、熱心に仕組みや環境づくりに取り組んだ。
- ▶ 「男らしさ」や「女らしさ」を超え、自分が好きなことや得意なことを活かすことが当たり前となっている。こうした環境を整えるために、男女や年齢を問わず、多くの人が色々な意見を出し合ってきた。その評判を聞いて、移住者も増えている。

「企業・役場」

- ▶ 分野ごとに見ていこう。
- ▶ まず、職場について言えば、喜界町役場の職員も男女比率の差がなくなり、町役場や民間の管理職の女性比率は（2025年の10%未満から）20%程度があたりまえになっている。
さらに、女性社長も数多くみかけるようになった。
- ▶ 男性女性に関係なく、自分の強みや得意、関心を活かした職業選択をすることが当たり前になっている。

- ▶ 喜界町の役場や企業は、子育てがしやすい職場として、全国に知られている（表彰された）。
- ▶ 柔軟な休暇取得やリモートワークの導入、病児保育やスポットで利用できる託児事業などが進んでいる。
- ▶ 育児休業は、子供の両親が取得し、町では赤ちゃんを連れたパパもよく見かける。
- ▶ 役場や企業で、定期的にジェンダーギャップ解消のための話し合いを続けた結果、最近では（ジェンダーギャップについて話し合う必要がなくなり、）いかにひとりひとりが自分らしく働けるか、生きることができるか、という内容にシフトしてきている。

「家庭」

- ▶ 家庭における変化も大きい。
- ▶ 家庭内での子育て意識（や家事分担についての意識）も変化した。
- ▶ 子育てに関心を持つ男性が増え、子育てパパを街でよく見かけるようになった。
- ▶ 保育園のお迎えやPTAへの参加も男女問わず分担するようになった。
- ▶ 子供達も学校でジェンダーについての学習をし、家庭でその内容に触れることも多いので、子供達の言葉がきっかけで、大人があらためてアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）などに気付かされることも多い。
- ▶ 育児の環境が整っていて、男女問わず子育てがしやすくなっている。

「街角・地域」

- ▶ 地域や街角を見ると、子育てパパが増えた以外にも、変化が見られる。
- ▶ それは、街の中に、他者を尊重する文化が根付いていると感じられることだ。
- ▶ （男女共同参画計画づくりをきっかけに、ジェンダーについての話し合いを続けたことで）異なる立場の人のことを想像して考えることのできる力が育まれている。
- ▶ LGBTQ+の人たちも隠れずに、普通に暮らし、発言することができている。

「政治」

- ▶ 政治は日本で最もジェンダーギャップが大きな分野だったが、この分野においても大きな変化があった。
- ▶ 喜界町議会の議員の女性議員の比率は、今の10%以下から30%となった。それ以外にも、女性が地区長の役を担う割合も増えている。
- ▶ 色々な場面で女性が自信を持って意見を言えている。

「教育」

- ▶ ジェンダーギャップ解消に教育や保育の現場が果たしている役割も大きい。
- ▶ かつてのように、女の子はピンクや赤、男性は青といった、色の使い方をしている学校や保育園はない。【保育者や教育者は定期的に学びの機会を設け、自分たちが若い頃に植え付けられたアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）が次世代に影響を与えないように意識的な努力をしている】また、学校において、ジェンダーギャップについての授業も行なっている。
- ▶ 進路指導についても、男女に関係なく、各自の強みを活かした進路指導が行われている。